

ご近所のお医者さん

634

さの小児科
クリニック院長

佐野博彦さん

一豊中市

平常心是道

2023年を迎えましたが国内外で戦争、気候変動、新型コロナウイルス感染症、物価高など多くの問題が山積しています。その中で、現在の状況に見合った禅語を探してみました。

唐の名僧

・趙州と師の南泉の問答です。
趙州「如何是道」(道とはどういったものでしょうか)

今でも生きる「道」をしよう

南泉「平常心是道」(普段の心こそが道である)

「平常心」はよく使う言葉で、普段通りの心の状態のことです。一方、

「平常心」とは、日常の小さな行いもおろそかにしない心のことです。その時にできることを最善の努力をもってすることです。

西洋にも同じニュアンスの有名な言葉があります。マルティン・ルターの「たとえ世界の終末が明白であっても、自分は今日、リンゴの木を植える」という名言です。

農業は特に大変なお仕事で、種や木

を植えて育てても、収穫までに天災や動物・盗難の被害にあえば水の泡になってしまいます。人の営みも同じで進学や就職に対して何年もかけて準備をしても、それが実らないこともありますよね。スポーツや音楽の大会のために努力をしても、予選で負けてしまったたり、選手として選ばれなかったり、大会が中止になることもあり

り、大会が中止になることもあり

そもそも明日生きているかどうかも分からないのは、みんな同じです。

いろいろな感染症や食糧・エネルギーの不足、気候変動、収入の減少に物価高騰。例えそういことがあっても、自分の本来の学業や仕事を続けようとする意思を持続的に持ち続けることが大切だと考えています。サステナブル(持続可能)という言葉は、こういう意味でも使いたいです。